

平成 30 年度第 2 回苫小牧市防犯のまちづくり懇話会会議録

1 日 時 平成 31 年 3 月 26 日 (火) 15 : 00 ~ 16 : 20

2 場 所 市役所 2 階入札室

3 出席者

(委員) 谷岡裕司委員長・松村順子副委員長・杉浦謙城委員・
高橋裕美委員・阿部和法委員・佐藤一美委員・
柳田和弥委員・小野寺傑委員・橋根啓子委員
(事務局) 片原市民生活部長・野水安全安心生活課長
石垣副主幹・木澤主査

4 次 第

(1) 開会

(2) 任命書交付

(3) 市民生活部長あいさつ

(4) 委員長あいさつ

(5) 説明事項

・平成 30 年度防犯施策の取組みについて

・平成 31 年度の防犯対策事業について

(6) 懇談

(7) 閉会

懇 談 要 旨

「こども SOS の家の実施」について

【委員】

苫小牧市における防犯施策取組状況（平成30年度）の3ページ、こどもSOSの家の事業評価について、「ステッカーを貼っている建物と実際に逃げ込める建物が一致していない所もあったが、整理することにより子どもが安心して逃げ込めるようになった。」とあるが、調査等をしてそのような結果だったのか、それとも誰かの主観なのか。

【事務局】

担当課はこども支援課となっているが、ステッカーを新たに作り直して、昨年配布をして取組みを強化したと報告いただいている。担当課としては、100パーセントではないが、従前より刷新したということをもって取組みの強化が図られて効果が出ているという判断となっている。

【委員】

10年以上前に、私たちのNPOで小学生1万人に対し、こどもSOSの家に逃げたことがあるかというアンケートを行った。回答率は60数パーセントであったが、逃げ込んだことがあるという子は二人しかいなかった。一人は自転車が壊れてピンポンを押したというものだった。あれから年数も経っているので、SOSの家の事業の評価とか、実際に子供たちに聞く調査とかもまたやってもらえれば良いと思う。

【委員】

今の話に関連して、SOSの家がどこにあるのか。また子供が飛び込んできたときにどのように対応するのか。マニュアルだとか、どのように連絡して対処するのかだとか、子供たちはどのくらいSOSの家を認知しているのか。SOSの家はどのように対応するのかだとか。留守にも関わらずSOSの表示がされていて、この家本当に子供が来ても大丈夫なのかという家も結構ある。SOSの家の実態をちゃんと把握しているのか。ただステッカーを貼るだけなら何の意味もない。ちゃんと指導できているのか心配していた。

【事務局】

事業の趣旨、目的をしっかりと説明し、内容を理解いただいて、協力ができるという中で実施している事業。ステッカーを貼ったから常に家にいなければならないというものではない。SOSの家以外でも、もっと地域全体で子供たちを見守っていけるような環境作りであるとか、働きかけもしていく必要がある。それぞれ担当しているところで連携して行っており、ご心配するのは当然であるが、しっかりと実施していることはご理解いただきたい。

【委員】

子供にとっては避難所。駆け込んだ時に留守で対応できなかったということにはならない。

【事務局】

確かに何かあったときに助けるというものではあるけれども、そういうことが起きないように普段から地域が意識を持っていただけるような働きかけを行っている。

【委員】

この事業に私も関わっていたが、もう一つの効果として、予防効果というものがある。SOSのステッカーを貼ることによって、この地域の住民は子供たちのことを見ているよという予防効果も期待してこの事業を始めた。予防効果という点では貼ることに意義があるのではないかと考えている。

【事務局】

何か今の取組みにプラスできることはないか、しっかりと伝えていきたい。

【委員】

私はステッカーを貼ることをお断りした。とても対応できない。真剣に考えてお断りした。ないよりはあった方がいいかなという程度。

【委員】

一番の目的は逃げ込んだときに何とかしてあげるのではなくて、犯罪抑止効果。京都では全世帯に配布して全戸で貼っている。防犯意識の高い地域であることをアピールし、また、子供が何かあったときに、貼っている家にただいまと言って入ることができる安心した気持ちを持てるもの。来たら責任を持たないという家庭が増えることはSOSのステッカーの効果を下げることになる。

【委員】

貼ることでストレスを感じる。何かあったときにどういう対応したらいいかが何も書いていない。

【委員】

1 2年前のアンケート調査でも、助けを求めた子は2人しかいなかった。そんなにしょっちゅう来るものではない。

【委員】

来ないとは限らない。犯罪から子供を守ることに自信がある人が貼ればいい。大体貼ってあればいい。

【委員】

いつも在宅している方がストレスを感じてしまうというのは結構大きな問題だ。それについては調べたいと思う。

【委員】

貼る方は責任を持って貼らなければならないと私は考える。安易に貼って後は知らないというのはだめで、きちんと対応しなければならないもの。ただ貼ればいいってものではない。

【委員】

私もそこが心配だった。ただ啓蒙のために抑止力として貼っているだけで、子供が助けを求めた時に何の対応もしないでいいのか。

【事務局】

そういうお話になりますと、市で何ができるかではない。最終的には警察の対応となる。警察に通報するしかなくなる。貴重なご意見をいただいたが、ここで結論が出るものではないので、ここでのお話はこども支援課にしっかり伝える。

【委員】

私が言いたいのは、ここで対応するとかではなくて、子供が助けを求めてきたときに警察に通報するとか、マニュアルみたいなものをつけておいた方がいいのではないかということ。

【事務局】

逃げ込んだ時にこういった対応を取ってくれというものは当然準備されている。

「苫小牧港まつり、苫小牧スケートまつりにおける啓発活動」について

【委員】

港まつりの啓発用うちわが 500 枚、スケートまつり啓発用ティッシュが 400 個と思ったより少ない。何人で何日かけて何時間使って配っているのか。

【事務局】

港まつりについては、交通安全母の会、それと自発的な活動として、交通安全指導員会、スケートまつりについては、防犯協会、指導員会、両方とも警察が連携をとって実施している。来場者数を考えると配布数は多くはないが、ここに載せているものに加えて、交通安全のティッシュに防犯の内容を加え、追加で配布しているものもある。

【委員】

これは予算面というよりも人手の関係でこういう数字になっているのか。

【事務局】

やはり、ボランティアという中で活動をお願いしているので、人手という部分もある。

【委員】

予算面では問題ないのか。

【事務局】

増やすという意向が強く出されるのであれば、検討していきたいと思う。

【委員】

なぜこういったことを言ったのかと言うと、民生委員のふれあいコンサートを 800～1,000 人のお客さんを目標にやっているのだけれども、そこでいろいろな啓発運動を行っている。そういうところにこういうものを含めてもいいのかと思った。予算さえ付くのであればこちらも検討したい。

【事務局】

おっしゃる通り港まつりにしてもスケートまつりにしても、市役所のいろいろな部局で、市民にお知らせしたいことについて配布しているのが実態。連携が取れるようなところは一体となり、そうすることで小さなものが大きくなっていくということは可能だと思うので、私どもも工夫していきたい。

「街路灯設置事業」について

【委員】

街路灯設置事業の話だが、「要望どおりに設置され、好評を得ている」となっているが、日新3丁目バイパスの遊歩道は夕方になると物凄く暗くなって怖い。不良っぽい子供たちがたむろしているし、人が潜んでいてもわからない。要望とか出なかったのかと不思議に思っている。

【事務局】

ここに記載している街路灯は、遊歩道までは入っていない。市道とか生活道路とか一般的な道路での対応となっている。

「苫小牧市総合防犯計画」について

【委員】

総合防犯計画のことだが、犯罪認知件数が半減して素晴らしいと思う反面、北海道内の犯罪率でいくと5位くらい、札幌近郊は多い反面、小樽や北広島は少ない、犯罪率の多いまちの特徴的な傾向はあるのか。そこがわかれば今後どういう防犯の対処をすればよいのかわかると思うのだが。低いところも含めて、その理由、なぜ多いのか、過去3年を見ても何となく似通っている。そこを見つければ、苫小牧もそちらに舵を切っていけば犯罪が減っていくはずだと思うのだが。

【事務局】

犯罪発生件数、認知件数の分析というのは、私どもも見えない部分である。あくまで警察で押さえている部分の数字、私どももどうして苫小牧は犯罪が多いのか、警察としても理由を掴めていない。ただ昔から傾向的に苫小牧は犯罪発生件数が多い。認知件数、発生件数は微減ではあるが減ってはきている。これだという具体的なものはないかもしれないが、犯罪全般に対して、警察がいろいろな取り組みを強化している。私どもも一体となってサポートしながら動いていくという形しか取れない。そこがわかれば、一気に減らすということが可能なのだと思う。

「防犯カメラ「設置要望調査に基づく設置5カ年計画表」について

【委員】

公園で遊んでいる子供が増えているということは非常にいいことだけれども、日中でも青年が公園にいる。公園の防犯カメラの要望が50台となっているけれども、市内全部で50カ所ではないでしょう。子供たちが遊べる公園には全部に防犯カメラが設置されるといいなと思っている。最近不審者がなんとなく多い気がする。

【事務局】

防犯カメラについては、H27～H31までは公共施設の犯罪抑止を目的に進めさせていただいている。それ以降の計画については、公園など一般道路等も含めた不特定の方が利用されるところがやはり必要になってくるのではないかということで、そこを基本に計画を作ることに関係部局と協議している。ただ、確かに防犯カメラは何かあったときの確認もできるし、犯罪抑止という部分での効果があることは、私どもも十分理解しているが、必ずしもカメラで対応しなければいけないのかというところが防犯カメラを活用していく中で課題となる部分である。必ずしもカメラではなく、やはり地域、人で、地域によって見守りができるような環境づくりをしていく中で、目が行き届かない状況、どうしても必要だという所に対して防犯カメラをどう効果的に設置をしていくか、というようなところを考えながらやっていかなければ、至る所、安全という所は正直ないと思う。緑地公園課が公園を所管しているのだけれども、主だった公園等には時間はかかるが、防犯カメラを計画的に設置していきたいというような考えは持っており、今後の計画にうまく反映していけるのではないかと考えているので、次回のこの会議までお待ちいただきたい。

「街路灯設置補助事業」について

【委員】

街路灯設置補助事業の事業概要には、費用の一部を補助するとなっているが、具体的にどのような形になるのか。

【事務局】

設置の基本は町内会となる。町内会で設置に係る費用の2割～3割を市から助成する。担当する市民生活課から市内の全町内会に意向調査をしており、希望のある所に実際にやるやらないの希望を取っている。

【委員】

何割かを知りたかった。町内会の会費の使用目的を説明するときに話をしたい。

【事務局】

最終的にはほぼ10割になるはず。ただ最初から10割ではなく、電気代も含めて支援していくというもので、最終的にはほぼ10割の助成で作れるような仕組みにしている。犯罪抑止という部分では、街路灯の整備も大きな一つの要素となる。

【委員】

街路灯は町内会。でも町内会の加入率は微妙なところがある。そこで市としてはどう考えているのか。

【事務局】

市と町内会の協働のあり方について、市役所全体で町内会と連携を取る部局はどういうようなところで、もっと連携が取れるかという所を見直さなさいということが、市長から号令がかかって動いてはいるところ。やはり町内会の加入率が下がってきているというところが問題にもなっている。担当課としては町内会への加入促進という形で、去年などは担当町内会、それぞれの地域に市民生活課と市民生活部長等が出向いて、町内会の課題、問題点は何かという直接の意見交換をしたり、何とか町内会の加入促進と活性化を図ろうというような取り組みというものは実際に動き出している。少しお時間いただければ、少しずつ変わっていく働きかけができるのではないかと思っている。

【委員】

個人的な意見であるが、札幌あたりは雪が降るので、みな町内会に加入しないとおかしくなってしまう。アパートがあっても除雪は全員がお金を出し合わなければできなくなってしまうので、札幌の加入率は70%ちょっとある。苫小牧は62%くらい、苫小牧は雪がないからお互いに好き勝手に出来るような感じで、若い人たちがそのアパートに住んでいても町内会に加入しなくてもいいという状況もあると思う。若い人にとってはメリットがない、年を取ってくると地域を大切にしなければ自分たちがちょっと動けなくなればどうなるのかとなる。よって、年を取った人たちに町内会に協力いただいているというのが現実ではないか。その差がはっきり出てきているのだろうと思う。このような中でお互いにどのように付き合っていけるのかというところがやはり課題である。今後ますます、悪くなると思う。社会が便利になればなるほどある意味においてはおかしなことが起こっていると個人的には思っている。

「終わりに」

【事務局】

責任を持って、所管する部局の方へお話を伝える。防犯対応策という形で防犯協会と連携し、新年度、各町内会、NPO、強健塾さんもそうなんだけれども、地域防犯パトロールという自主防犯組織を作って、活動いただいている。その活動の一助という形で、青色回転灯を車に付けてパトロールいただいている方もいらっしゃるが、その車用にドライブレコーダーを設置して、より効果的なパトロールができるように、新年度、市から各団体に新規事業として始めさせていただく。このようにできることを進めて参りたいと思っている。

また、先ほどの街路灯について、街路灯の費用は新規で5万円ほどが平均相場。そして補助として、3/5の3万円ほど、町内会の負担として2/5の2万円ほどというような形をお願いをしているところ。電気代の方も全額を補助する形になっているので、全く10割というお話ではないが、維持をしていく上では、サポート体制ができていないかと思っている。